

# 幸せへの道

人権尊重の  
まちづくりを目指して<sup>2</sup>

## 「なぜ、人権教育が必要なのでしょう」

愛媛県人権対策協議会内子支部長代行 中本<sup>いさむ</sup>勇

私が人権・同和教育に参加するようになったのは34年前、27歳のときです。年々経験を重ねることによって少しずつ内容が深く理解できるようになり、活動もできるようになってきました。

今までの活動の中から「結婚問題」についての一例をお話します。

若者二人は約2年の交際を続けていました。互いの両親とも仲が良く、「○○ちゃん」と呼ばれて付き合いは順調でした。二人は結婚を決意し、報告。ところが、それからは一変して「結婚反対」となりました。賛成してもらうまでに半年以上かかりました。

賛成してもらえたのは「おばあちゃん」が応援してくれたからです。両親に対して、「お前たちのときも反対したが、言うことを聞かず結婚したではないか。孫の幸せのために、好きな人との結婚を認めてやるべきだ」と助言し、二人は結婚することができました。おばあちゃんは老人会

で毎年、人権・同和教育を受け、勉強を重ねた人でした。

このような行動のできる人が、どのくらいいるのでしょうか。このおばあちゃんと同じ考え、行動をする人が増えたら、あらゆる差別が無くなり平等で明るい町が生まれるでしょう。そのためには継続した学習が必要です。子や孫、そして自分の幸せのためにも、人権・同和教育に参加し、勉強していきたいものです。

ところで現在、学校の教科書が無償なのを当然のように思う人がいるかも知れませんが、この無償化を勝ち取るために懸命な努力がありました。かつて、差別によって職業や文字を奪われた結果、学校に行きたくても教科書代や給食費が払えないという現状に、高知県の教師をはじめ県民が立ち向かいました。このような努力によって、現在の教科書無償化があるので。

高校での人権・同和教育の一例を紹介します。  
高校では、就職差別につな

がる恐れのある「14項目」について学習しています。面接などの際に、生徒本人の能力に関係の無い14項目の質問には「学校の指導で答えられません」との回答を徹底するということです。

ある企業では面接時に、お金を扱うレジ係を担当するという理由で本人の能力などには関係の無い家庭内のことなどについて質問があったそうです。生徒は「答えられません」と言い切り、その内容を学校へ報告。学校と職業安定所が企業を訪問し指導を行いました。その後、合格通知が届きましたが生徒は就職しませんでした。この生徒は母子家庭でした。

生徒本人の能力によって、みんなが平等にスタートラインに立ち、幸せな就職ができること。これが今の時代の常識です。

あらゆる差別が無くなるように、人権・同和教育を進めながら明るい内子町をつくっていきましょう。

差別を受けたり、差別落書きを発見したりした場合は、ご連絡ください。

○うちこ福祉館 ☎0893(44)3410

○参川福祉館 ☎0892(50)1015

○内子町役場 住民課 ☎0893(44)6152 ※休日も受け付けています。